2026 年度

研究分野	授業科目名	科目責任者
形態系分野	腫瘍外科・総合外科学特論Ⅰ・Ⅲ	山辻 知樹

開講年次	共通／専攻／選択	単位数	
1,2,3,4	特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択	特論Ⅰ：4（2/年）, 特論Ⅲ：1/年	

目的

最新の分子細胞生物学から最先端の化学療法，さらに，高い技術力を要する外科手術や高水準の周術期管理について，広い範囲の研究手法を学び，これからの外科学に求められる新しい臨床研究を実践する能力を身につける。

授業到達目標

（1）カンファレンスにおいて自身の研究成果を発表し、研究討論に積極的に参加することにより，分子生物学から最新の臨床外科学で用いられる研究手法と問題点を理解することができる。
（2）臨床現場において発生した様々な疑問を解決するため，分子生物学的手法を用いた基礎研究や，統計学的解析を用いて，悪性腫瘍の予後改善，外科治療成績改善を目指した臨床研究の計画・実践までを行うことができる。

授業計画

回数	月日	曜日	時間	担当者	区分 1	区分 2	授業内容
1	毎月	第 1 日	9:00-11:30	山辻 知樹	講義	[抄読会・ 研究検討会]	総合外科学研究カンファレンス [場所:総合医療センター 5F カンファレンス室 3]

評価方法

【特論Ⅰ】
（1） 1年間※で 30 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2） 1年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
【特論Ⅲ】
（1） 1年間※で 15 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2） 1年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
ただし，特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものとは異なる論文（症例）であること。
特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。
※１～３年生は２月末まで，４年生は 11 月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

課題（レポート等）に対するフィードバック

カンファレンスにおいて課題の進捗状況をプレゼンテーションし，今後の課題について，教官からフィードバックを受ける。

教科書

ISBN-9780815344643, Molecular biology of the cell, Bruce Alberts ... [et al.] ; with problems by John Wilson, Tim Hunt, W. W. Norton, 2022
ISBN-978-4-315-52062-0, 細胞の分子生物学, Bruce Alberts [ほか] 著 ; 中村桂子, 松原謙一監訳, ニュートンプレス, 2017
ISBN-9784524204267, 新臨床腫瘍学, 日本臨床腫瘍学会編集, 南江堂, 2024
課題によって個別に指示する。

参考書

課題によって個別に指示する。

準備学習（予習・復習等）

（1）科目責任者あるいは指導教員と，各自紹介論文の選定および発表内容について事前に十分打ち合わせて準備を行うこと。
（2）発表後には議論された内容について復習を行うこと。

修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

課題を探求し，仮説立脚，検証に至るまでの科学的方法論・思考法を知悉する。

注意事項・メッセージ

探求心を持って実践応用可能な知識を身に着けることを期待する。
«現在進行中の主な研究課題»
（1）食道癌の安全な周術期栄養管理
（2）心臓外科領域における安全な周術期管理手法の開発
（3）チーム医療としての周術期栄養管理とリハビリテーション
（4）化学療法副作用軽減に関わる技術開発
（5）遺伝子編集技術を応用した癌病態解析および新規治療法の開発
（6）心臓血管外科領域における疾患モデルの確立
（7）臨床組織を用いた 3 次元培養系（オルガノイド）の確立とトランスレーショナルリサーチへの応用
（8）高齢者機能評価に基づく周術期サルコペニアの評価